

## 「保育」の原点

## レーガン氏の微笑

文

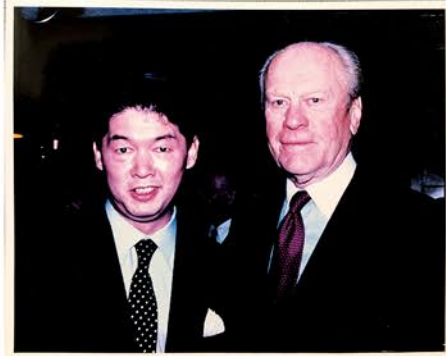
## 葛西得男

text by Tokuo Kessai

**日** 本人同士が話をする時、なんとか相手と合意しようとして友好ムードを全面に押し出してジャパニーズスマイルなどと揶揄されることがあります。アメリカ人は常に戦う用意があり、自己主張の激しさは日本人とは真逆と言っても過言ではありませんが、同時にアメリカ人は笑顔を忘れないという傾向があります。

それを一番感じたのは、私を可愛がってくださったアメリカ合衆国第40代大統領のロナルド・レーガン氏でした。

若い頃、何人かの「世界の指導者」と言われる偉人にお会いできる機会がありました。緊張の連続でしたが、レーガン氏と初めてお目にかかった時、その笑顔を一瞬見ただけで張り詰めてい



アメリカ合衆国第38代大統領ジェラルド・フォード氏(任期1974年8月9日～1977年1月20日)とともに。

た緊張が一気に解かれて、安心感へと変わっていくという感覚を覚えました。最近、世界のトップの政治家を見てみると笑顔が少ないと感じます。特にトランプ大統領の笑顔を見たことがない印象は私だけなのでしょうか？今、アメリカには怒りを優しく包むリーダーがいらないような気がします。今こそ団結して統一の中で不満を沈めるメッセージが欲しいと思うのです。

昔、レーガン大統領がよくおっしゃっていた言葉に「独裁的な政治をする指導者の下で暮らす国民は不幸である」というものがあります。まさに微笑みを絶やさず国民のために働いてくれる大統領こそ今の時代に必要とされているのではないかと感じています。

米国大統領の中で一番不器用な大統領と言われていたのが、リチャード・ニクソン氏の辞任を受けて大統領になったジェラルド・フォード大統領でした。

エアフォースワンの入り口で頭をぶつけたら、タラップから滑り落ちるなど、失敗のエピソードはいっぱいありますが、群衆の前に出ると不器用な大統領が大きな腕を上げ、一生懸命に笑顔を振りまいて素晴らしいスピーチをしていたのが印象的でした。彼の素朴で誠実な人柄は当時のアメリカ人の誇りでした。

リチャード・ニクソン氏同様、彼は

もともと笑顔を作るのは得意ではありませんでした。そんなフォード氏に笑顔の作り方を教えたのはレーガン氏であると、元レーガン政権の高官のフレッド・ライアン氏に聞いたことがあります。

今「アメリカ第一主義」という思想がアメリカを二分する大きな対立へとつながっているとしたら、思えないのです。

笑顔も無く、ただ怒りだけが行きかう現実。

トランプ氏にもレーガン氏の笑顔があれば、もっと世界は変わって行くのだから、と思うました。

## Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。1975年に帰国後、アプリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人松福会 理事長に就任。松福会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アプリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。アプリカ葛西 副社長時代に国連UNEP 環境計画のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。

